

開倫塾ニュース 7月号御送付の御案内

学校の定期テストでは全科目100点満点を取ろう

- 英語、数学(算数)、国語、理科、社会だけではなく音楽、保健・体育、美術、技術・家庭など、すべての科目で100点満点を目指そう -

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：なぜ塾長は、学校で学ぶすべての科目の定期テストで100点満点を取ることを目指そうなどとおっしゃるのですか。学校の勉強など社会に出て役に立つのですか。もっと言えば、学校でやること、いろいろな行事や活動などは社会に出て何の役にも立たないのではないのですか。何のために学校に行くのか、何のために学校で勉強するのか、その意味がよくわかりません。塾長の考えをお聞かせ下さい。

A：(林明夫：以下省略)私の考えは明確です。学校で学ぶすべての科目は世の中に出て役に立つ。学校の行事や活動はすべて世の中に出て役立つ。だから、学校で学ぶすべての科目は定期テストで100点満点を目指すべきだし、学校行事や学校での活動にはできるだけ積極的に参加すべきだ。このように考えます。

Q：もっと具体的に話して下さい。

A：例えば、皆さんが社会に出て就職をした、仕事に就いたとします。会社や役所、NPO(非営利組織)やNGO(非政府組織)などで働き始めたとします。その時一番大切なのは、決められた時間の少し前までに職場に到着するという事です。病気や家族に何かあった時などよほどの理由がある場合は別として、遅刻や欠席をせずに決められた時間の少し前に職場に到着しなければ、自分の仕事を始めることができません。遅刻やお休みをする人が何人か重なると、店が開けない、工場のある部分が稼働しない、仕事が進まなくなることすらあります。

お客様と待ち合わせをした時には、その時間の少し前に待ち合わせの場所に到着しなければ、お客様と仕事の話ができません。遅れた場合は何分かは待ってくれるかもしれませんが、少し長く待たせると、お客様は次の予定がありますから移動してしまい、仕事の話ができないこともあります。遅刻して行くと、十分な話ができず、仕事がうまく進まないこともあります。このようなことが重なると、お客様を失うことすらあります。

このように、仕事をする時に一番大切なのは、時間の少し前に職場に到着するという事です。これは、学校でも、遅刻をしないように、欠席をしないようにと教育されているのに似ていると思いませんか。

また、時間の少し前に到着しても、朝食を抜いてばかりいたのでは元気に仕事をすることはできません。前の晩に夜更かしをして睡眠不足で頭がボーッとしていても、仕事をすることはできません。忘れ

物があると、仕事は進みません。仕事におしゃべり(私語)をしたり、私用の携帯電話をかけたり、仕事に関係のないことを考えていたのでは、仕事になりません。ミスが発生させてお客様を失ったり、事件や事故が発生させる直接の原因にすらなります。

授業中の「居眠り」「忘れ物」「おしゃべり(私語)」「携帯電話」「授業以外のことを考えること」などはできるだけ避けるよう、学校や開倫塾で教育されていると思います。これは、学校や開倫塾の中だけでなく、社会に出てからも必要なことです。学校に通っている間に、何をすべきか、何をすべきでないかを身につけておくといえます。授業中に先生の許可を得ないで机から離れて勝手に歩き回ると、先生から注意を受けます。仕事に用もないのに職場から離れると、仕事になりませんね。

Q：授業中に「ノート」を、取ることも仕事をするのに役立ちますか。

A：役立ちます。大いに役立ちます。仕事はどのように身に付けるかといえば、上司や同僚、お客様などから教えて頂いたことをメモをし続け、そのメモをわかりやすく整理しファイルした上で、正確に「理解」し、正確に「定着」させて頭に入れ、実際の仕事で役立てる、つまり「応用」することを心がけることで、多くの仕事が身につけられます。

これは、学校や開倫塾の授業中に、必要なことをすべて「ノート」に取り、授業後わかりやすいように整理をしまとめ上げた上で、教科書や問題集などとともに正確に「理解」し、その「理解」したものを正確に「定着」させて頭に入れ、「理解」「定着」させたものを用いて、「定期テスト」で100点を取ったり「入学試験」などで合格点を取るときに役立てるのと同じと言えます。

学校や開倫塾の授業中に、必要なことを必死になって「ノート」に取り続けることは、社会に出て仕事をするときには役立ちます。

簡単なマニュアルはあっても、仕事の上での教科書はありません。自分の仕事は自分のメモで身に付けることが大事と私は考えます。

Q：学校行事や学校での活動も、社会に出てから役に立つのですか。仕事をするときに役に立つのですか。

A：役に立ちます。大いに役に立ちます。入学式、卒業式、始業式、終業式、運動会(体育祭)、文化祭、修学旅行、自然体験、芸術鑑賞など様々な学校行事があります。また、学級には、学級会、委員会、班活動、当番があります。生徒会活動やクラブ活動、部活動など様々な活動が学校にはあります。これらの学校行事や活動は、すべて社会に出て大いに役に立ちます。

様々な行事は、学校全体、学年全体、学級全体、クラブ全体、部全体が心を一つにして取り組まなければ、上手にできません。生徒会もそうですよね。仕事をするときに最も大切なのは、企業や組織の「社会的使命(これをミッションと言います)」に基づき、すべてのメンバーが心を一つにして各自に与えられた職務を全うすることです。

何が自分達に与えられた「社会的責任」なのかを、企業や組織内での様々な行事で折に触れて確かめ合います。例えば、何のためにこの会社は存在し、何のためにこの仕事は必要なのか、そのために今年は何をしなければならぬのか、この四半期(3 か月ごと)にすべきことは何かなどを、全社で、また、職場ごとに確認し合い、意見交換し合うのが会社であります。

日本をはじめ世界中は、今 100 年に一度の不況で、ものやサービスが売れず、多くの会社は困り果てています。国や自治体も税金が今までのように入らず、困り果てています。借金をしても返

すあてがないからです。借金すらできないことになりつつあるからです。

このような時には、問題点を先送りにしないで、何が問題かをはっきりさせ、その原因は何かを率直に話し合い、とりあえずどうしたらよいかを考え、今日からでもやってみる。ゆくゆくはどうしたらよいかも考え、期限を決めて少しずつでもやってみることが大事です。

何か、学校でやっている行事や様々な活動に似ていませんか。

Q：教科以外の行事や活動で、一番役に立つのは何ですか。

A：「そうじ」でしょうね。「整理」「整頓」「清潔」「掃除」「躰(しつけ)」も大事ですね。これらをローマ字で書くと、それらの頭文字は皆「S(エス)」なので、「5S(ごエス)」と言い、これらを仕事の間(職場)で徹底し、仕事の効率を上げ、「生産性(せいさんせい)」を上げようという運動を「5S運動」と言います。

— 5S 運動 —
整理(せいり)
整頓(せいとん)
清潔(せいけつ)
掃除(そうじ)
躰 (しつけ)

私は、掃除など「5S」の方法を、学校での行事や活動で自分なりに身につけておくことが大事だと思います。仕事場が汚く、ゴミだらけ、何がどこにあるかわからないのでは仕事になりません。ものを捜しているだけで、1日が終わってしまいます。

Q：5番目の「躰」とは何ですか。

A：「躰(しつけ)」とは、「美しい立ち居振る舞い(たちいふるまい)」と「敬語表現を含む言葉遣い(ことばづかい)」であると私は考えます。

「美しい立ち居振る舞い」には、「服装」や「身だしなみ」も入ります。仕事の間での話し方は、基本的には「です、ます」調、つまり「丁寧語」を用います。乱暴な言葉遣いや威張った言い方をすると、上司からも、同僚からも、また、お客様からも信頼されません。何回かは教えてくれることもあるかもしれませんが、そのうち誰にも相手にされなくなり、コミュニケーションがうまくいかなくなることもあります。せっかく入った会社なのに、躰の1つである敬語表現を含む言葉遣いが身に付いていないと、離職の原因になることもあります。

仕事の間では、躰の第2番目の身支度(みじたく)、服装を含む「立ち居振る舞い(たちいふるまい)」も大事です。髪やヒゲが伸びすぎたり、下着が見える服装は、仕事の間では不適切です。落ち着きがなくキョロキョロしたり、自信がなくオドオドしすぎると、信頼して仕事を任せてもらえませんが。

学校行事に積極的に参加したり、部活動やクラブ活動、学級会活動、児童会や生徒会活動などに励めば励むほど、この2つの意味の「躰」は身に付くと私は考えます。

ところで、皆様は阪神淡路大震災のことを学んだり、記憶なさっていると思います。あのような自然災害の時には、人々は正気を失って商店を襲い食料や衣類などを奪うことが多くの国であるようですが、日本では1件もなかったと伝えられております。その原因はなぜかが議論された際に、日本人の規範意識(きはんいしき)の高さ、つまり、どんな時でも悪いことをしてはならない、皆が困っている時にそこにつけ入るようなことをしてはならないという「道徳心」がよく教育されているからだという意見が出されました。また、学校行事で培われた集団訓練が規律ある行動を生んだのだとも言われました。

日本の学校の優れた点は何か。何年か前にフィンランドのタンペレで開かれた「世界カリキュラ

ム研究会議」で話題になったのは、教科の教育以外に、日本には学校行事をはじめ様々な素晴らしい活動がある。その質は極めて高く、「隠れたカリキュラム(Hidden Curriculum)」とさえ言えるということでした。

日本にだけいる皆様はほとんど気づいていないようですが、日本の教育は、教科の教育も世界でトップレベルであります。教科以外の教育も「隠れたカリキュラム」として、世界でも 1 のきめ細かさ、質の高さで行われていると私は考えます。

どうか学校に在籍している間に、教科以外の学校行事やありとあらゆる活動に積極的に参加して、様々な「能力」を身に付けて下さい。それらの「能力」は、学校生活を充実させると同時に、すべて社会に出てから役に立ちます。仕事の上でもすべて役に立ちます。

Q：そうですか。何だか「キツネ」につままれたような気がします...

A：もしそのようにお疑いになるのであれば、御家庭の方や御近所の方、お知り合いの方でこの人はという人に私のこの文章を見て頂いて、どうお考えになるか感想をお聞き下さい。もしかしたらそうかもしれないよという方も多いと私は思います。

Q：そろそろ、各科目がどのように世の中に出て役に立つのか、なぜすべての科目の定期テストで100点を取ることがよいのか聞かせて下さい。ズバリお聞きします。すべての科目の中で最も世の中に出て役に立つ科目は何だとお考えですか。

A：「保健・体育」と「技術・家庭」だと私は考えます。生きていく上で一番大切なのは、健康に過ごすことと家庭生活を大切にすることだと考えるからです。

「健康」とは、「身体健康」だけでなく「心の健康」も意味します。身体と心の健康をどう一生かけて維持するか。家庭科は、英語で Home Making と言います。家庭はつくり上げるものという考えを、この英語はうまく表現しています。どのような営みを経て心温まる家庭を築き上げるか。身のまわりの簡単なことは自分の技術でやってしまうのに、技術・家庭科は多くのことを教えてくれます。

自分の力で、身体を鍛え上げて健康を維持し、家庭生活もつくり上げる。簡単なことはすべて自分の技術で行い、人を頼らない。そのために、「保健・体育」と「技術・家庭」は大いに役立ちます。元気でなければ

ですから、学校の授業と真剣に取り組み、ノートもよく取りましょう。教科書や副教材をよく「理解」した上で、スミからスミまで覚えて定期テストで 100 点を取って下さいね。

Q：次に役立つのは何ですか。

A：ズバリ「音楽」と「美術」です。日本人の平均寿命は世界でもトップクラスで、女性は 90 歳、男性は 80 歳を超えようとしています。「人生は短く、芸術は長い」と昔は言われましたが、現在の日本は、多くの人々の努力のおかげで世界で 1 ~ 2 を争うくらい「長く生きられる国」になりました。何が幸せかと言えば、長く生きられることだと考える人が多いのではないのでしょうか。長く生きることができるという点から言えば、日本人は世界一幸せと言えますね。

身体を鍛え、健康に気をつければ、100 歳を超えても元気に生き続ける人がどんどん出始めたのも日本の素晴らしさと言えます。

但(ただ)し、問題はどのように生きるかです。せっかく長生きできる日本なので、豊かに生きることも考えてよいと思います。「音楽」や「美術」は学校時代に授業で真剣に取り組み、基本的な知識や技術を身に付けておくと、一生涯、死ぬその日まで豊かな人生が送れるものと私は考えます。

少しでも音符が読め、やさしいところだけでも音符に添って歌が歌え、楽器を演奏できることは人生の喜びです。好きな曲を繰り返し聴くことで、どんなに癒されるかわかりません。

美術も同様です。絵画や彫刻、映像など古典から現代まで、芸術家は命懸けの様々な活動を続けて「作品」を残しております。学校時代にその基礎的な知識や技術を身に付け、折に触れて美術に親しむことは人生を豊かにします。一本のえんぴつでも様々なことが表現できます。

仕事の上でも、美術は大いに役立ちます。同じ製品やサービスを提供するにも、デザインの力で消費者を引きつける度合いが異なるからです。

音楽や美術は、世界のものだけが優れているわけではありません。日本の音楽、美術にも非常に魅力的なものが山ほどあります。自分たちの住む地域にも、古いものから新しいものまで素晴らしいものがたくさんあります。

世界はグローバル化し、人々やものやサービスやお金の移動が、多くの人々の努力と技術の積み重ねで、人類の歴史始まって以来と思われるくらいどんどん自由になりつつあります。皆様は、国内でも海外でも自由に移動できる極めて自由度の高い日本の国民です。どうか自分の努力で機会をつくり、国内、海外の素晴らしい音楽、美術に親しみ豊かな人生を送って下さい。

そのための基礎となるのが、学校での授業です。学校の「音楽」、「美術」の授業に真正面から真剣に臨み、ノートをどんどん取り、教科書、教材、ノートをスミからスミまで「理解」するよう努力して下さい。定期テストを活用して、それらをすべて正確に覚え込み 100 点満点を取ってしましましょう。100 点を取るくらい勉強すればその科目がよくわかり、つまり「理解」できていて、知識が「定着」していますので、大半は一生忘れることはありません。人生や仕事のありとあらゆる場面で、死ぬときまで役に立ちます。

*お葬式も、よく考えれば音楽と美術なしでは考えられませんね。

Q：なるほど。「保健・体育」「技術・家庭」「音楽」「美術」などの教科は、社会に出て、また、仕事をする上で役に立つのですね。一生涯、死ぬときまで役に立つとは驚くような話ですね。これらの科目は何のために勉強するのか今まで考えたこともなかったので参考になりました。

A：日本は世界でも有数の豊かな国なので、皆様はあたり前のように学校に通っていますが、世界の中には学校に行くべき年齢になっても学校に来て下さいという通知が来ない国がまだまだたくさんあります。

学校には行くことができても、教室に行ったら先生がいない国もあります。学校にトイレがなくて、学校に行けなくなるような国もあります。

日本は小学校や中学校の義務教育は無料ですが、税金で 1 人あたり 100 万円が支出されているのを皆様はご存知ですか。税金の何分の一かは、皆様の教育のために使われています。日本も非常に貧しい時期がありましたが、一人ひとりの人生や生活を豊かにするために必要と思われるから、学校での教科の教育が設けられました。国民の貴重な税金を使って、世の中に出て役に立たないような科目を学校で教えることはありません。

これは、どこの国でも同じです。学校では、その国で考えた国民に必要な科目を教育しています。

Q : 「英語」「数学」「国語」「理科」「社会」は、世の中に出て役に立つのですか。仕事に役に立つのですか。

A : すべて役に立ちます。世の中に出て役に立ちます。死ぬまで皆様の役に立ちます。仕事にも役に立ちます。現代は「知識基盤社会」、つまり「知識が基盤となった社会」なので、小学校、中学校、高校の教科書ぐらいの知識がないと成り立たない仕事は山ほどあります。

これら 5 教科も、学校での授業に積極的に臨み、必要なことはすべてノートに取り、授業後十分に「理解」した上で、定期テストまでにスミからスミまで正確に覚え 100 点を取ることを目指して下さいね。

各科目がどのように役立つかは、次の機会にお話します。それまで自分でも考えておいて下さい。とりあえず、全科目とも定期テストで 100 点が取れるよう頑張ってください。

* 次に、開倫塾ニュース 7 月号巻頭言のために私が書いた原稿を全文掲載します。十分お読み下さい。

開倫塾ニュース2009.7月号巻頭言

2009年5月18日

学力を身に付けるために

- 「学習の3段階理論」とは -

Q : 学校の定期テストで100点を取ったり、進学を希望する学校の入学試験や資格試験・国家試験などで合格点を取ったり、社会で生活するのに役に立つ「学力」を身に付けるには、どのような勉強の仕方をしたらよいのですか。

A : (林明夫。以下省略)いろいろな学び方があると思います。開倫塾でお勧めするのは、学習を「理解」、「定着」、「応用」の「3段階」に分けて、各段階にふさわしい勉強をすることです。開倫塾では、これを「学習の3段階理論」と名付けました。一生役に立つ学び方ですので、「人生の成功」のために、開倫塾に在籍する間に正確に身に付けることを希望します。

学力を身に付けるには、「読書による熟慮・熟考・省察・自省する能力」と、「学び方を学ぶ能力」が欠かせません。「学習の3段階理論」は、「学び方を学ぶ能力」を身に付ける上で役立つと考えます。

Q : 第1段階の「理解」とは何ですか。

A : 「理解」とは、「うんなるほどとよくわかる、納得する、腑(ふ)に落ちること」です。

(1) 「理解」は、学校や開倫塾などの「授業」でもできますが、一人で学ぶ「自習」でも可能です。

(2) そこで大切なのが、「授業」の受け方、参加の仕方と、「自習」の方法です。

「授業」中は、姿勢を正し、手を机の上に置き、先生の目を見ながら、まずはしっかりと先生のお話をお聴きしましょう。また、先生の指示に従い、授業中の活動に積極的に参加しましょう。

必要なことは、どんどんノートにメモを取り続けましょう。(授業が終わった後、勉強しやすいように「ノート整理」をすることも大切です。)

*「ノート整理」の仕方も身につけましょう。

授業の「欠席、遅刻、早退」や、授業中の「忘れ物、私語・おしゃべり、居眠り、ボーッとしていること、携帯電話、徘徊(はいかい)」などがなぜよくないのか考えたことがありますか。それは、「理解」の妨げとなるからです。折角、先生が皆様により授業をしようとする時間もかけて準備をしても、皆様が教室に存在しなかったり、存在しても気持ちが授業に集中していなければ、また、忘れ物があれば、「理解」の妨げになります。「うんなるほどよくわかる」ことの妨げになります。授業には、積極的に参加して下さいね。

Q:「自習」でも「理解」はできるのですか。

A:十分に可能です。学校や開倫塾の教科書などを、授業で先生のお話をお聴きするような熱心さでゆっくり読めば、「理解」はできます。「そうか、これはこういうことなのか」と、よくわかりません。

(1)教科書などを「自習」していて、よくわからなくなったらどうするか。「語句」の意味がよくわからなくなったら「辞書」や「事典」を用いて調べること。内容がよくわからなければ「参考書」で調べることをお勧めします。「調べたこと」は、「ノート」に「メモ」をしておくことも大切な勉強方法です。

*「辞書」「事典」「参考書」、学校の「図書室」、公共の「図書館」の使い方を少しずつ身につけましょう。

(2)授業後、つまり復習として「自習」をしたがどうしてもよくわからない、「理解」できないときは友達に「これはどういうこと」と相談したり、それでもわからなければ学校や開倫塾の先生に「ここがわからないのですが」と遠慮なく質問しましょう。

(3)授業前、つまり授業の予習として「自習」をしたがどうしてもよくわからないときは、何がよくわからないかをはっきりさせた上で、授業に臨みましょう。「予習」は、「何がわからないかをはっきりさせてから授業に臨むためにすべきもの」と言えます。

Q:よくわからないところを友達に聞くのは、よいことなのですか。

A:「これはどういうこと」「これはどんな意味」と気軽に友達に聞いたり、「これはこういうことかもしれないよ」と教え合うことは素晴らしいことです。よくわかっている人は、友達に教えることでさらに学力が「定着」し、よくわからない人は、「理解」ができるからです。皆様も、このような「学びの共同体」を毎日5分間でもよいですから作ってみましょうね。

Q:第2段階の「定着」とは何ですか。

A : 「定着」とは、一度「うなるほど」と「理解」したことを身に付けることです。「定着」には、3つの内容があります。

(1) 「定着」の第1は、一度「うなるほど」と「理解」したことを、何も見ないでスラスラ口をついて言えるまでになることです。つまり、「暗誦(あんしょう)・暗唱(あんしょう)」です。

「暗誦・暗唱」ができるようになるために一番よい方法は、「声を出して読むこと」、つまり「音読」です。何十回、何百回も「音読練習」することをお勧めします。

(2) 「定着」の第2は、一度「うなるほど」と「理解」したことを、何も見ないで正確に楷書(かいしょ)で書けるまでにするということです。そのための最も効果的な方法は、「書き取り」です。そこで、何回も、何十回も書いて覚えること、つまり、「書き取り練習」をお勧めします。

(3) 「定着」の第3は、一度「うなるほど」となぜそのような答えになるかが十分に「理解」できた「計算」や「問題」は、その「計算」や「問題」を見た瞬間にパッパッと条件反射で正解が出るまでにするということです。そのためには、一度やった問題を何回も、何回もやり直すこと、つまり「計算練習」や「問題練習」が大切です。「計算・問題練習」をお勧めします。

<p>* 開倫塾では、この「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」を「定着のための3大練習」と呼び、皆様にお勧めしています。</p>

Q : 第3段階の「応用」とは何ですか。

A : 「応用」とは、「理解」、「定着」させたことを用いて、学校の定期テストで100点満点が取れること、入学を希望する学校の入学試験などで合格点が取れること、社会で役に立てることです。

(1) 学校の定期テストで100点を取るには、まずは学校や開倫塾の授業にしっかりと取り組み、「理解」をする。次に「定着のための3大練習」を徹底的に行い、「定着」を図ればOKです。試験範囲をよく「理解」した上で、「完全丸暗記」することです。

(2) 入試等で合格点を取るには、その試験で「過去に出題された問題(過去問、かこもん)」を5~10年分実際に解いてみる。同じ年度の過去問を5~6回やり直すことが大切です。そして、間違えた答えについてはなぜ間違ったのか、その原因を自分で分析することです。これを、開倫塾では「誤答分析(ごとうぶんせき)」と呼んでいます。

(3) 「応用」の第3は、生涯にわたり社会での生活や活動に役立てること。これが、学習の最終目標と考えます。

Q : 最後に一言どうぞ。

A : 学力を身に付けるためには、「新聞を含む読書」により、「熟慮、熟考、省察、自省する能力」と「批判的思考能力」を身に付けることが重要です。これぞという本は、5~6回熟読しましょう。

そして何よりも「学び方を学ぶ」能力、英語で言うと「Learning To Learn(ラーニング・トゥ・ラーン)」の能力を身に付けることです。

勉強は社会に出てからが本番です。自分なりの学習方法を少しずつでも身につけて、生涯にわたって自分の能力を強化し続けることが「人生の成功」、「多様な選択肢のある人生」を歩む上で大切かと考えます。

皆様は、どのようにお考えになりますか。

まとめ

学力の身につけ方を考える

- 「学習の3段階理論」とは -

1. はじめに

「学習の3段階理論」とは、「学習を3つの段階に分け、効果の上がる学習方法を考えること」です。

2. 「理解」とは、うんなるほどとよくわかる、納得する、腑(ふ)に落ちること

(1) 「**授業**」: 学校や開倫塾の授業中は、姿勢を正し、手を机の上に置き、先生の目を見て話をよく聴く、授業に積極的に参加する。

必要なことはすべてノートを取ること

授業を妨げるもの... 「欠席」「遅刻」「早退」「忘れ物」「おしゃべり(私語)」「居眠り」「ボーッとすること」「携帯電話」「徘徊」

(2) 「**自習**」: 自分の力で「理解」すること

辞書、事典、参考書、学校の図書室、公共の図書館の使い方を身に付けること

授業終了後、自習をしてわからないことがあれば友達に質問すること。それでもわからなければ学校や開倫塾の先生に質問すること

授業前、つまり予習として自習をしてわからないことがあれば、「わからないことをはっきりさせて授業に臨む」こと。これが「予習」の本当の意味

3. 「定着」とは、一度「理解」したことを正確に身に付けること

(1) 何も見ないで口をついてスラスラ正確に言えること(「暗誦・暗唱」)

↳ 「音読練習」が効果的

(2) 何も見ないで楷書で正確に書けるまでにすること

↳ 「書き取り練習」が効果的

(3) 一度理解し、なぜそうなるかがよくわかった計算や問題は、計算や問題を見た瞬間に条件反射

でパッパッと正解が出るまでにすること

↳ 「計算・問題練習」が効果的

* 「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」を、「定着のための3大練習」と呼ぶ。

4. 「**応用**」とは、「理解」、「定着」した内容を自由自在に用いることができること

(1) 学校の定期テストで100点満点が取れる

↳ 学校や開倫塾の授業をよく聴き、また、積極的に参加し十分「理解」、「定着のための3大練習」で確実に「定着」することでOK

(2) 入試等の試験で合格点が取れる

↳ 「過去問」を5～10年分実際に解き、間違えた問題についてなぜ間違ったのか、「誤答分析」すること。同じ年度の問題を5～6回解くこと。

(3) 「理解」、「定着」したことを、社会での生活・活動に役立てることができる

5. 学力を身に付けるための前提条件

(1) 「新聞を含む読書」で、「熟慮、熟考、省察、自省する能力」と「批判的思考能力」を身につけていること。(これぞという本は、5～6回読み直そう)

(2) 「学び方を学ぶ(Learning To Learn ラーニング・トゥ・ラーン)」の能力を身につけていること

自己学習能力の育成

6. 「鍵になるような基本的な学力」とは(「キー・コンピテンシー」とは)

(1) 「自律的に活動する能力」

高い倫理

(2) 「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」

高い学力

(3) 「多様な集団で交流する能力」

高い国際理解

7. 学力を身に付ける目的

(1) 自分の「人生の成功」(多様な選択肢をもった人生)

(2) 「持続可能な社会の形成」に少しでも役立つこと

* 学力は一生かけて身に付けるべきもの

8. おわりに **参考になる言葉**

(1) 「一生青春、一生勉強」(相田みつを先生)

(2)「教育ある人とは一生勉強し続ける人」(ドラッカー先生)

(3)「いつまでも若々しく生きる」(中村天風先生)

- 2009年5月17日林明夫記 -